

いじめゼロのまちに 市内小学生が意見を交換

「登米市小学生いじめ問題を考えるフォーラム」は8月1日、宝江ふれあいセンターで開かれ、市内全22校の小学校から44人の児童が参加し、いじめ問題について意見を交わしました。

児童らは、友達から言われて嫌な言葉などについて考え、楽しいコミュニケーションを取るにはどうしたらいいか話し合いました。中津山小6年の木村暖さん＝米山町齊藤＝は「他校のみんなとたくさん話をし、相手の気持ちや考え方が人それぞれ違うことを知り、とてもいい経験になりました」と個性を認め合う気持ちを胸に刻んでいました。



友達と楽しくコミュニケーションを取るにはどうしたらいいか、グループで話し合った意見を模造紙に記入し、発表しました。

自分の近未来に向け 42企業が就職ガイダンス

「登米市就職ガイダンス」は7月27日、登米総合体育館で開かれ、42の企業と市内外からの就職希望者214人が参加しました。

就職ガイダンスは、学生の就職支援と若者の定住を促進することが目的。登米高2年の渡辺直さん＝追町中江＝は「宮城県警察と登米市消防本部の説明を聞きました。自分が想像していた以外にも、さまざまな仕事や部署があることを知りました。これからの進路を決める上で、大変参考になりました。参加してよかったです」と、近い将来に向けてより具体的なイメージを膨らませていました。



参加者らは、説明員に質問したり、メモを取ったりするなど、真剣な姿勢で臨んでいました。

未来へのラブレター 女子高生が求める登米市

「OH・TO・ME - 女子高校生会議」は8月2日、市役所迫庁舎の大会議室で開かれ、市内3校から12人の高校生が参加しました。

会議は、女子高校生がこれからの生き方を考えるとともに、それを実現し、誰もが生き生きと暮らせるまちなについて話し合いました。登米総合産業高3年の高井なおさん(18)＝東和町米谷4区＝は「とても勉強になり、楽しくみんなと話し合えました。10年後、今よりいいまちなになってほしい」と話していました。発表された内容は、女性の市政参加のために設置した女性会議で情報提供します。



会議はワークショップ形式で実施。10年後の登米市に向けたラブレターとしてまとめ、発表しました。

長沼に笑い声やまず 人気番組ファンイベント

北海道テレビ放送(HTB)の人気バラエティ番組「水曜どうでしょう」の巡業イベント「DODESYO CARAVAN 2018」は7月28日、長沼フットピア公園で開かれ、県内外から訪れた多くの来場者でにぎわいました。

イベントでは、同番組のディレクター藤村忠寿さんと嬉野雅道さんによるトークショー、ライブやボートレースなどが催され、会場には終始笑いと歓声が。友人と訪れた大森友貴さん(28)＝涌谷町＝は「出演者の二人に長沼ボート場の風を感じてもらえてうれしい。間近で見ることができて、ますますファンになりました」と笑顔を見せていました。



番組の主題歌を熱唱する出演者ら。来場者もタオルを振りながら一緒に歌い、興奮冷めやらぬイベントが終了しました。

平和の誓いを後世へ 祝祭劇場で戦没者追悼式

「登米市戦没者追悼式」は8月24日、登米祝祭劇場で開かれ、遺族など約400人が参列し、恒久平和を誓いました。

黙祷後、熊谷盛廣市長は「私たちは恒久平和を強く求め、戦争を繰り返さないために、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えていかなければなりません」と式辞を述べました。来賓の追悼の言葉に続き、参列者が献花。戦没者3529人の冥福を祈りました。参列した千葉清子さん(74)＝中田町川面＝は「戦争で父を亡くし、母が苦勞して育ててくれました。戦争は全てを不幸にします。二度と起こらないように」と手を合わせました。



白菊を供え、手を合わせる参列者ら。平成最後の追悼式で恒久の平和を亡き家族に誓いました。

家族で木に触れ合う 津山でもくもく工作教室

「もくもく親子工作教室」は7月14日から29日までの土曜、日曜の6日間、道の駅津山もくもくランドで開催され、約100組の親子などが参加しました。

親子工作教室は、親子で木に親しんだり、協力して作品を作り上げたりしながら、木との触れ合いを深められる場として毎年開催。親子で参加した須藤健吾君(8)＝津山町横山9区＝は「お父さんとお母さんのために、スマートフォンやテレビのリモコンを入れる箱を作りました。くぎを打つのが難しかったけど、お母さんと協力しながら楽しく工作できました」と喜んでいました。



参加者らは、配られた矢羽模様の板などを使って工夫しながら工作。最後は丁寧にヤスリで仕上げっていました。